

更年期女性の手指障害の治療

人口の高齢化に伴い様々な変性疾患が増えてきている。整形外科・形成外科における手外科疾患としては手指の変形性関節症（Heberden 結節，Bouchard 結節，母指 CM 関節症など）や骨粗鬆症がその最たるものである。これらの疾患は女性ホルモンの一部であるエストロゲンの変化と深く関係しており，更年期に伴う不定愁訴が未治療であった結果，病気に発展したことが多い。このような未病段階の更年期の手の不定愁訴（こわばり，関節痛，変形，しびれなど）は「更年期手（menopausal hand：メノポーズザルハンド）」と定義されてきたが，最近では日本手外科学会が「メノボハンド」と命名して国民への啓蒙活動を行っている。

男女共同参画の考えのもとで女性の社会進出はめざましいものがあるが，様々な理由により，未だに問題は山積している。特に社会の指導的立場であるべき更年期女性の問題は無視できず，経済産業省の統計では労働者に占める女性の更年期人口は 2025 年がピークとなり，その経済的損失は 1.9 兆円と報告されている。この時期の女性を取り巻く状況は，仕事での責任，子どもの教育，親の介護などの社会的問題が多く，なかなか自分の手指の不調に向き合う時間的・精神的余裕も少ない。しかし，この未病の段階こそが症状の進行を抑えるために重要な時期である。

更年期女性の手指の診療にあたる際には，正しい更年期の知識，対処の仕方を学ぶだけでなく，進行した疾患への治療法も習得する必要がある。平均 65 歳の日本人の実に 90% 以上に 1 関節以上の手指の変形性関節症があるという報告もあり，手指の変形性関節症は日本人にとっては国民病といってよい。本特集では，更年期に関する基礎知識，電話相談にみる更年期手の実態，更年期手の定義，話題のエクオールに関する知識と使い方，手指症状に対する装具療法の実際，更年期手に対するエクオールの効果と限界，Heberden 結節に対する関節固定術の実際，さらには Bouchard 結節に対する浅指屈筋腱切除術・人工関節置換術など，幅広く網羅し，それぞれの第一人者に現在の最前線の考え方について執筆をお願いした。

（平瀬雄一）